

日本の食文化 ～美しいお箸の使い方～



年度の始まりである4月は、気分を新たにして何か新しい事を始めてみるのにぴったりの時期ですね。

そこで今月ご紹介するのはお箸のマナーについてです。

お箸自体の持ち方は日々の食事で自然と身に付くかもしれませんが、お箸の正しい使い方については知識として一度は学習する必要があります。

正しい食事のマナーが身に付いていると外食時や冠婚葬祭の際に慌てる事なく心に余裕を持って食事することができます。

この機会にお箸の使い方を見直してみるのはいかがでしょうか。

また、これから大きくなるお子様にもぜひ教えてみてください♪



忌み箸（＝マナー違反とされるお箸の使い方）の種類を知り、正しい食事マナーを！

○刺し箸：料理を箸で突き刺して食べる動作。見た目が悪だけでなく火の通り具合を疑っているようにも見えるため控えましょう。

○渡し箸：器の上で箸休めをすること。箸休めは箸置きの上でしましょう。

○迷い箸：どの料理を口にするか迷い、料理の上で箸を動かす動作。食べる料理を決めてからお箸を伸ばしましょう。

○探り箸：箸を汁椀の中でかき回し底に具材が残っていないか探る動作。音や汁の飛び散りが起こるため控えましょう。

○涙箸：箸先から汁物などの汁をばたばたと落とす動作。食卓が汚れるので控えましょう。

○移り箸：いったん箸をつけた料理を食べずに別の料理へと箸を移す動作。周りから落ち着きがないように見られてしまうため控えましょう。

○合わせ箸：箸から箸へ料理を渡す動作。火葬後の遺骨を骨壺に納める際と同じ動作であり、不吉であるため控えましょう。

○ちぎり箸：箸を両手に1本ずつ持って料理をちぎる動作。幼稚に見えるため控えましょう。

○直箸：取り箸を使わずに大皿料理を自分の箸で取る動作。

次にその料理を食べようとする人が不快に思うため控えましょう。

○立て箸：箸をご飯に突き刺して立てる動作。仏教式の葬儀の際に死者へ御飯を捧げる動作と同じであり不吉であるため控えましょう。

